

とおやま しもつきまつり
遠山の霜月祭

伊那谷の民俗芸能

上村と南信濃に伝わる湯立神楽。両部神道による湯立祭りで、清和天皇の859～876(貞観年中)年に宮廷で行われていた祭事を模した湯立が、ほぼ原形のままで傳承されていると言われている。毎年12月に13神社で行われ、深夜には面をつけた舞手が登場する。

1979(昭和54)年に国重要無形民俗文化財の指定を受けた。

平成25年は、両地区合わせて9神社で行われた(1神社は隔年開催・3神社は休止中)。



人々の魂を洗い清める
映画『千と千尋の神隠し』の湯治場のモデルになった



神面をつけた舞が厳肅な雰囲気を保ちながらもにぎやかに行なわれる

information

- アクセス
天竜峡ICから45km
車→1時間30分
- 所在地
飯田市上村・南信濃



**湯立て
神事**
**神事に込め
られた意味**

この神楽は伊勢神宮の内外で行われていた湯立神楽の系統を引く。天井に神降臨の座を示す白蓋を吊し、そのまわりにさまざまな切り紙を引きまわし、白蓋の下に大釜を据えて湯を立てる。その湯を神々に献ずるとともに、神の息吹のかかった湯を参集した人々に振り掛け、人々の魂を洗い清める。

神事を中心は水にかかわる湯立であり、神事全体を通じて防災意識がみられる。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)